

武庫川だより

森田 至

武庫川では、9月の中旬は夏鳥から冬鳥への変わり目です。

夏鳥：ササゴイ。旅鳥：ノビタキ。冬鳥：コガモ。留鳥：ゴイサギの4種を紹介します。

○ササゴイには面白い習性があり、疑似餌で魚をおびき寄せて捕食します。私が目撃したのは、水草を疑似餌に使っていました。

○ノビタキは、春と秋に見られる旅鳥です。両シーズンには1ヶ月ほど滞在しています。秋見られるものは北から南へ渡る途中のものです。

○コガモは、冬のカモ類としては1番早く武庫川には飛来します。来た頃はエクリップスですから、オスメスの区別は付きませんが体が小さい（カルガモと比較）ので種は同定できます。

○ゴイサギは、留鳥ですが武庫川では年中見られるわけではありません。ホシゴイと呼ばれる幼鳥が1羽だけ来ています。成鳥羽には3年かかると言われています。



(ササゴイ)



(ノビタキ)



(コガモ)



(ゴイサギ)

宝塚のトンボ 「ナツアカネ」

森野光太郎



皆さん「赤トンボ」といえば「アキアカネ」と思うかもしれませんが、ナツアカネという種類もあります。体長は4～5cmで、日本全国に分布しています。ナツアカネは、成熟するにつれ赤く体色に変化すること、胸部斑紋がアキアカネに比べて角ばっていることで見分ける事ができます。

なぜナツアカネという名前になったかという、ナツアカネは羽化後そのまま留まって近くの山林で摂食活動を行い、秋は繁殖のため近くの田んぼへ戻るといった生活史をしていることに由来しています。そのため、「夏でも人里でよく見られる赤トンボ」という生活史をしていることから「ナツアカネ」と名付けられました。

ナツアカネは普通種ですが、幼虫の生活できる田んぼと成虫の生活できる山林が身近にある場所でないと生活できないので、宝塚市内でも市街地では見られなくなっています。

トンボは幼虫期・成虫期ともに肉食で、捕食行動や繁殖行動は主に視覚を用いている純捕食者の昆虫です。トンボの目は、動くものや色にとっても敏感に反応する（動体視力が良い）ので、微小昆虫を捕食することができ、体の色と大きさとで雌雄や種類を判別しています。

また、体の色と大きさがよく似ている別種のトンボの場合は、交尾する時に種を間違えるトンボがまれにいます。しかし、交尾器の形が種ごとに違うこと、種間雑種が生まれても既知種の個体群集の方がはるかに大きいため自然淘汰される自然選択説の2つの考え方によって、それぞれのトンボの多様な種類が維持されています。

このように生き物の種名は、その生活史や特徴に由来していることが多いです。そして、その生き物の生態や個体群、食物連鎖を調べてみると生物と環境は自然界のつり合いによって生活できている事、それらを保全する大切さと重要性がみえてくると思います。(写真上段がオス、下段がメス)

保護協会はどんな活動をしているの？

事務局 垣田



宝塚市社会福祉協議会主催の小・中生ボランティア入門講座で学んでいる10名の子ども達に「宝塚市自然保護協会がどんな活動をしているのか」を伝えてほしいとの依頼を受け、一部ですが活動の紹介をしました。

難しい話をして「さて何のこと？」とならないように、まず「自然にふれあう、自然に親しむ」活動を知るということで、プラザコム前の広場で昆虫採集。虫好きの子ども達はすぐ「採ったよ」と報告してくれていました。飛んでいるトンボも上手く網を使いこなして採集。ナツアカネ、ウスバキトンボ、ツマグロヒョウモン、オンブバッタ、クルマバッタモドキ、キマダラカメムシなど16種。福祉協議会の方は「いつになく子どもが歓声をあげていて、びっくりした」と話されていました。



(採集場所だけ説明)



(プラザコム前の広場で)



(早速、「捕まえた！」)

部屋に戻り、捕まえてきた虫の話をした後、ギフチョウや逆瀬川の生き物探検、カワラサイコの保全活動や外来種のこと等をパワーポイントのスライドを通し「自然にふれあう」「自然を知る」そして「伝える」をキーワードに保護協会の活動を話しました。真剣に話を聞いてくれ、迎えに来た保護者の方に、早速今日のことを話してくれていました。

2部は、宝塚シェアリングネチャーさんと自然工作です。トンボのペンダントか木の枝を利用した鉛筆作りのどちらかを選択。最後は、これからたくさんの方が同じ工作物が出来るようにと、各部品を袋詰めにするボランティア活動をしてくださいました。



※締めくくりに採集した虫を全員で元の場所に放して、今日講座を終えました。